

国際教育研究フロンティアB 2009年度 「韓国の教育改革の動向」

1. 国際教育研究フロンティアBの概要

2009年7月31日（金）・8月1日（土）に、韓国ソウル大学教育学科教授の白淳根（ベッ・スンゲン）氏による集中講義「韓国の教育改革の動向」が第一演習室（総合研究2号館）にて行われた。そのうち、7月31日には、公開シンポジウム「日韓の教育改革の行方」を開催し、白先生には「韓国の教育改革の行方」について報告をいただいた。8月1日には、その報告をもとに、とりわけ韓国教育評価改革についての動向について講義いただいた。集中講義には、約20名ほどの院生・学部生が参加し、熱心に耳を傾けていた。



▶授業される白淳根先生

2. 集中講義の内容

講義は、次のような項目について進められた。

1. はじめに
2. 韓国李明博（イ・ミョンバク）政府の教育改革の課題
3. 韓国教育評価分野の主要研究課題および未来への展望
4. 教育評価分野の共同研究課題および相互協力方法の模索
5. おわりに

まずはじめに、全世界的に知識情報化・世界化の進む現代において、教育をどのようなものとして考えるかということが話題となった。白先生は、知識情報化社会においては、需要者（教育を受ける側）が教育の価値を判断して、それに対価をつけるという考え方に立つように変化してきており、教育改革はそうした視点から展開されるべきであると示された。そのためには、まず需要者（学生・保護者・地域の人々すべて）の満足を得るために、学校に対する自律性を高めることが一つの重要な動向であるとした。

次に、自律性を高めるためのプロジェクトや政策が白先生より具体的に語られた。参加した受講生は、英語教育をめぐるプロジェクトや、子どもたちの基礎学力の実態と学校の自律性の関連について興味・関心を持ち、学力診断テストによる基礎学力の判定方法や、基礎学力向上のための予算の配分をめぐる問題について、議論を行った。

午後には、韓国が先進的に進めている教育評価の考え方について講義が行われた。受講生への問いかけ等を通して、教育とは？評価とは？という教育評価の本質的な議論に始まり、評価をめぐる多様な利害関係者それぞれが持つ観点を総合的に把握した評価の必要性が示された。そして教育評価改革の中心的な課題である大学入試改革についても、とりわけ現在進められているアドミッションオフィサー制度についての具体的な動向や今後の課題について報告された。



▶熱心に参加する受講生の様子

今回、最も有意義だったのは、講義全体を通して、受講生からの質疑の時間が多く設けられたことである。受講生からは、例えば、基礎学力向上の問題をめぐる日本で課題となっている学習意欲の低さを取り上げ、韓国の状況を問う質問や、教師の専門性の向上をめぐる具体的な政策についての質問、遂行評価（パフォーマンス評価）の具体を問う質問など、さまざまな視点からの質問が出された。白先生はそれらの質問に対し、一つ一つ韓国における現状や課題を示された。

このように、今回の集中講義では、韓国において現在進行形で進められている国家的な教育改革の具体像を知ることができた。そして、こうした先進的な取り組みから得られる視点は、日本が直面している課題や今後進むべき方向性についても大いに示唆を与えてくれるものであった。



▶集中講義に参加した受講生たち
(前列中心が田中耕治・本学研究科教授、右が白淳根先生)

(文責：赤沢 真世)